

学校法人神戸学院 第2次中期行動計画 中期計画(第3層) 2022年度達成度評価表

		評価	理由
中期目標	教学の主体性を尊重しつつ、安定的な経営基盤を確立し、兵庫、神戸を代表する魅力ある学校となることを目指します。		
中期計画	1 経営と教学の役割分担の明確化と理事会機能の強化	B	第3次中期行動計画策定が予定通り完了することができたこと、附属中学校・高等学校において自己点検・評価マネジメントシステムを活用した上での中期行動計画の進捗管理に向けた準備を進めることができたことは評価できる。今後は附属中学校・高等学校においても法人及び大学と同一のシステムを活用して、法人全体で進捗状況が把握できるよう整備することが必要である。
	2 財政の健全化と安定的な経営基盤の確立	B	適切な資産運用や、株式会社神戸学院パートナーズからの寄付金の受入れなど、収入源の多様化に進捗がみられることは評価できる。今後は、長期財務計画の試算において掲げる経常収支差額比率などの数値目標と現状値との差を踏まえた上で、課題に対する改善策を検討することが必要である。また、本法人が100%出資する株式会社神戸学院パートナーズの事業展開方法について、さらなる発展に向けて引き続き法人として支援を行うことが望まれる。
	3 社会の変化に機動的に対応するための法人資源の選択と集中	B	有瀬キャンパス1号館建設工事及び2号館解体工事について工事費用の検討及び学内調整など継続的に行われていることは評価できる。今後は、大学の有瀬キャンパス再編整備計画全体における課題について、引き続き検討を行うことが必要である。また附属中学校・高等学校の施設についてもより重要課題として対応することが望まれる。
	4 労働環境の整備と男女共同参画の推進	B	事務職員の人事評価制度の導入、任期付事務職員及び嘱託職員に対して目標設定による面談の実施、評価者を対象とする研修の実施、及び電子決裁の導入に向けた情報収集を進めていることは評価できる。法人業務の合理化において今後より重要となる課題であり、具体的かつ速やかな実行が望まれる。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る